

令和3年度地震・津波防災訓練 (内閣府・北海道・木古内町)

実施報告書 (概要版)

北海道木古内町について

木古内町は、北海道の南端、渡島半島の南西部に位置する渡島総合振興局管内の自治体である。

基幹産業は漁業・農業・畜産などで、近年は和牛が特産として注目を浴びている。2016年3月には北海道新幹線が開業し、木古内駅は新幹線停車駅となった。

津軽海峡に面しているが、海岸沿いの市街地を除けば殆どが山岳地である。冬は積雪が多く、道南沿岸部の自治体では数少ない特別豪雪地帯に指定されている。このような地理的条件から、太平洋沖ばかりか、日本海沖における大規模な地震・津波の発生が高い確率で想定されているほか、豪雨・豪雪などの自然災害への備えが喫緊の課題となっている。

木古内町では令和3年4月に各種自然災害に対する施策として「木古内町強靱化計画」を策定し、防災への取り組みを強化している最中であり、本年、津波を想定した避難訓練を実施する運びとなった。



出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震
マグニチュード8クラスの地震 津波の高さ最大8.9メートル
- 実施日時：【訓練実施前WS】令和3年10月31日（日）10:00～12:00
※オンライン開催
【避難経路歩き】令和3年11月27日（土）12:50～15:00
【訓練実施後WS】令和3年11月27日（土）15:00～17:00
- 主催：木古内町、北海道、内閣府
- 参加者数：約17名
- 参加機関：佐女川町内会

訓練の評価

新型コロナウイルス感染症による制約等のため、訓練実施前ワークショップがオンラインでの講話視聴に、実動訓練は避難経路歩きに変更して実施した。

防災専門家（アドバイザー）として、北海道大学理学研究院 附属地震火山研究観測センターの谷岡 勇市郎教授と、前 札幌市 危機管理対策室 地域防災担当係長の早川直喜氏を招き、町内からは木古内駅・町役場周辺の佐女川町内会の役員に参加いただいた。

訓練実施前WSの講話では、早川氏から地区防災計画の概要と必要性について、谷岡教授からは木古内町で想定される災害と寒冷地における避難時の注意点について講話を頂いた。

津波避難経路歩きは訓練実施後WSとともに現地で開催し、職員・町民ともに地区防災計画の必要性について理解を深め、地区防災計画の素案の策定に向けて前進することができた。

避難経路歩きは両アドバイザー同行のもと、木古内駅をはじめ佐女川地区の各所で津波の想定浸水高を計測しながら津波避難所である中央公民館まで実地調査を行ない、津波の脅威について実感を伴ったイメージを深めることができた。

また、豪雪地帯であることから、冬場の避難における懸念点等に関しても意見交換を行なうことができた。

訓練実施後WSでは、避難経路歩きを実施して得た「気づき」や避難場所ごとの特徴についてグループワーク形式で意見を集約しながら参加者同士による評価を行ない、地区防災計画の素案に反映すべき内容を洗い出すことが出来た。

10月31日（日）10:00～12:00 訓練実施前ワークショップ（オンライン開催）

オンラインで開催された訓練実施前ワークショップでは、地区防災計画とは何か、木古内町における津波の被害想定と寒冷地における避難時の注意点についてアドバイザーによる講話視聴を実施した。

▼アドバイザー講演
（札幌市・早川氏）



▼アドバイザー講演
（北海道大学・谷岡教授）



11月27日（土）12:50～15:00 避難経路歩き

地区内の各所で津波の想定浸水高を測定しながら指定避難場所までの避難経路を実際に町職員・住民がともに歩き、経路上の危険箇所の確認を実施した。

公的施設でないことから指定避難場所に指定されていない佐女川神社も避難時には有効となること、スキー場は高台だが地震時に土石流の危険があることなど、地区の地理的特徴について多くの知見が得られた。

▼木古内町長による挨拶



▼北海道庁渡島総合振興局による挨拶



▼町中心部の津波想定浸水高を測定



▼佐女川の津波遡上の危険を喚起



▼冬季避難時における避難経路上の危険箇所（坂道）の確認



▼避難場所として佐女川神社の活用を検討



11月27日（土）15:00～17:00 訓練実施後ワークショップ

訓練実施後ワークショップを実施して、避難経路歩きの結果をもとに得られた気づきをマッピングして議論や相互採点を実施し、地区防災計画の素案作成の端緒とした。

▼アドバイザー講演
（北海道大学・谷岡教授）



▼アドバイザー講演
（札幌市・早川氏）



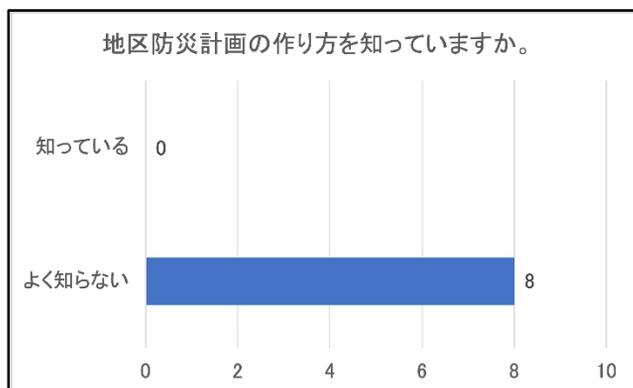
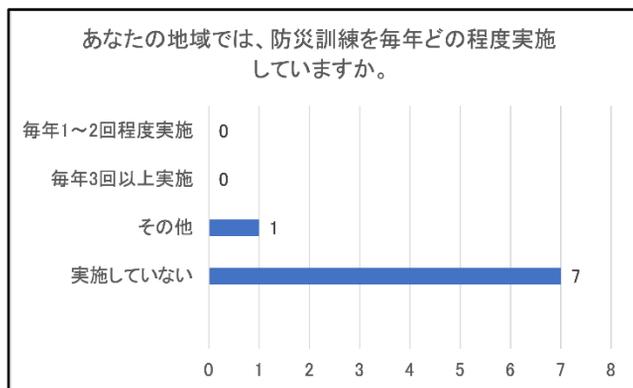
▼グループワークの様子



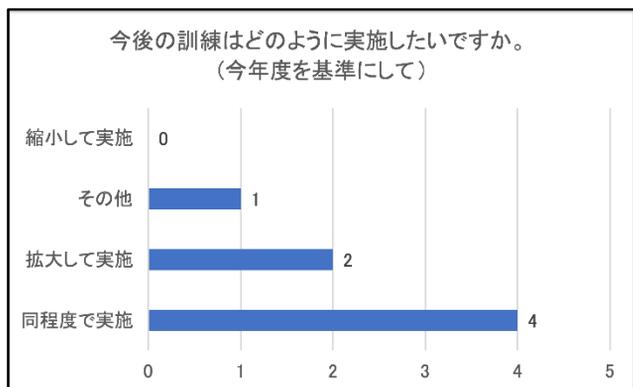
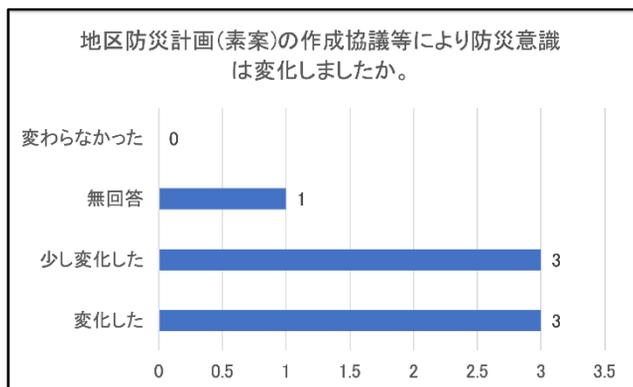
アンケート結果

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

○訓練実施前ワークショップ実施後



○避難経路歩き・訓練実施後ワークショップ実施後



【自由意見】

（津波避難に関する意見）

○冬期間（雪が積もっている状況）の避難経路の確認も必要だと思った。

（地区防災計画に関する意見）

○海が目の前にあるわけではないので、どちらの方向から津波がくるのか、どちらの方向に逃げるのか、地図・方向の把握が効率的に逃げる上で大切である。まち歩きをしたことで、理解・イメージが深まった。

（防災に関する意見）

○外部の人にも浸水区域・浸水深がわかるように標示が必要だと思う。

○避難場所への案内板が必要だと思った。

○避難所を増やしてほしい。

○普段から連絡を密にすることが大切だと思った。